

声なき声に耳を傾け、支援活動の継続を!

—JDF東日本大震災被災障害者総合支援本部 第三次報告会—



(財)全日本ろうあ連盟理事
JDF企画委員長

小出 真一郎

1. 東日本大震災2年目の検証とインクルーシブな復興

3月5日(火)正午より4時まで東京都千代田区の参議院議員会館において、日本財団・日本障害フォーラム(JDF)主催による、東日本大震災被災障害者総合支援本部第三次報告会が開催されました。

原田内閣府政策統括官(防災担当)、梅田ファイザー株式会社代表取締役社長、松岡国連国際防災戦略事務局員を来賓にお迎えし、また、衆参議員を含め300人の来場者がありました。

東日本大震災発生から2年が過ぎましたが、被災障害者への支援活動や復興への取り組みは、現在も続けられています。犠牲者のうち、障害者の割合が住民全体の2倍以上であるとのデータは、今後の対策を講じるためにも検証が必要であることを突き付けられています。このことを踏まえ、第三次報告会では活動報告、特別報告、パネルディスカッションが行われました。

2. 3.11ドキュメンタリー映画の完成記念上映

検証の1つとして、JDFが制作した東日本大震災のドキュメンタリー映画「生命のことづけ〜死亡率2倍 障害のある人たちの3.11〜」の完成記念上映も行われました。このドキュメンタリー映画は聴覚障害者の運動を背景にした映画『ゆずり葉』の監督経験を持つ早瀬憲太郎氏に監督を依頼したもので、さまざまな障害者の状況、声がおさめられています。例えば、聴覚障害者の管野さんは「聞こえないため、防災無線や津波の音がわからなかった」、難病の佐藤さんが津波が迫り来るその状況を目前に「もうあきらめましょう」と呟いたという事実は視覚障害者・精神障害者などさまざまな障害者の「その時」が映し出されます。この事実が、

今後の防災対策に活かされなければなりません。

早瀬氏は、映画のタイトルと、30分間という時間に編集することにずいぶん頭を悩まされたようです。そして、だれにも内容がわかるよう、「手話」「字幕」「音声解説」を駆使して、常に見え、聴こえるという、全ての人へ情報保障された映画となりました。このことは、全ての住民に対応する防災対策につながるメッセージでもあります。



東北とは中継で結んだ

来場者のアンケートには、幅広い話が聞いて良かった、実態がわかった、分析したことをどう活かすか、行政の対応、広く国民に周知していくことの必要性など貴重な意見がありました。映画に関しては、DVDが販売されれば、仲間、自治会、民生委員行政の担当者にも観てもらい、災害について一緒に考える資料にしたという意見があり、感激しました。

犠牲者の声なき声に耳を傾け、現実を見つめ、この支援活動を継続していかなければなりません。そして、アンケートにもあったように、全国・地域の仲間、行政、学校、民生委員などの関係機関と話し合い、周知を図っていかなければならないと、強く感じました。さらに、世界に向けて、防災の運動を広めていきたいと私自身も思っています。